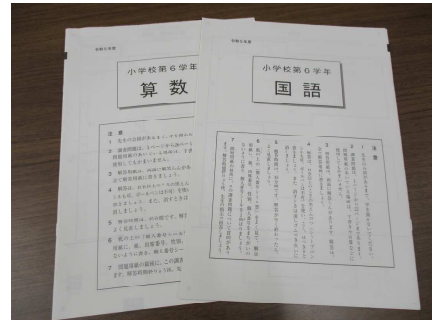




ぜんこくがくりよく がくしゅうじょうきょうちようさ けっか 全国学力・学習状況調査の結果について

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月19日(水)に全国の小中学校で実施されました。この調査は、学力向上を目指して、指導内容や指導方法の改善、生活指導に役立てる目的で行われているものです。本校でも6年生が、国語、算数の2教科と、児童質問紙(生活習慣や学習環境に関するアンケート)による調査を受けました。その調査結果が7月末に届きました。調査を実施した6年生には、2学期に入ってそれぞれの結果個票を返却したところです。



調査から測定できるのは、子どもの学力の一部であり、学校の教育活動の一側面ではありますが、結果をもとに学校と家庭が協力して、教育活動や児童の学習状況の改善につなぐことが大切です。そこで、今回の結果から見えてきた本校の特徴についてまとめてみました。

1 学力調査からみられる四郷小学校の特徴(強みと弱み)

本年度は算数と国語は全国平均をわずかながら下回る結果となりました(全国平均正答率と比べて1~2~3%)。また、2教科ともに、記述式の問題で無解答率が全国平均よりも高い傾向がみられました。

※ 調査の問題・解答は文部科学省ホームページからご覧になれます。

【国語】※ ○…強み(正答率が高いもの) ●…弱み(正答率が低いもの)

○「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域では、全国平均正答率を上回っていました。目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかみる問題(設問2一:正答率93.0%)、目的に応じて、必要な情報を見つけることができるかどうかみる問題(設問2二:正答率70.4%)と3~4ポイント高いです。

○「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心をとらえることができるかどうかみる問題」(設問3一:正答率77.5%)(設問3二:正答率73.2%)は7ポイント高くできていました。

○「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかみる問題」(設問1三:正答率47.9%)(設問3四:正答率79.5%)も全国平均正答率より高くよくできていました。

●「記述式」の問題の無解答率が全国平均より高い割合でした。

●「情報の扱い方に関する事項」原因や結果など情報と情報との関係について理解しているかみる問題(設問1一:正答率47.9%)や情報と情報との関係、図などによる語句と語句との関係の表し

方をみる問題(設問2)三(正答率49.3%)に課題がありました。

- 「日常よく使われる敬語を理解しているかどうかみる問題」(設問3)三(正答率53.5%)は5ポイント低く課題がありました。

【算数】

- 「数と計算」の領域で、全国平均正答率を上回っていました。
- ()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかみる問題(設問3)(1)(正答率78.9%)、加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかみる問題(設問3)(3)(正答率76.1%)は、6~9ポイント高いです。

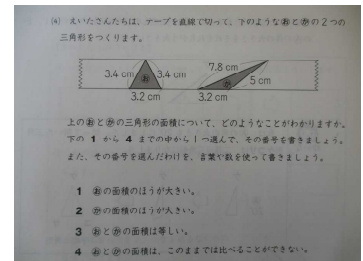
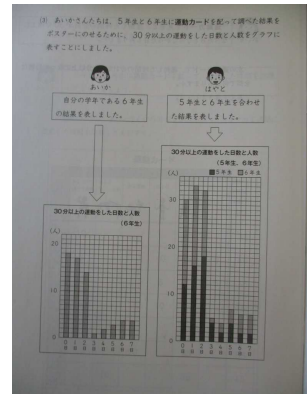
- 「台形の意味や性質について理解しているかどうかみる問題」(設問2): 正答率69.0%)は9ポイント高くできていました。

- 「変化と関係」、「データの活用」の領域は、全国平均正答率を下回っていました。

- 「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかみる問題」(設問1)(3)(正答率45.1%)は10ポイント低く課題がありました。

- 「図形」の領域で、「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断しその理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかみる問題」(設問2)(4)(正答率5.6%)、「正三角形の意味や性質について、理解しているかどうかみる問題」(設問2)(3)(正答率15.5%)で8~10ポイント低く課題がありました。

- 「百分率で表された割合について理解しているかどうかみる問題」(設問4)(1)(正答率35.2%)で10ポイント低く課題がありました。



2 児童質問紙からみられる特徴(学習・生活の状況に関して)

何よりもよいことは、「朝食を毎日食べている」の項目では、三重県・全国ともにほぼ同じ割合で高く基本的な生活習慣が整っているという点です。また、「いじめはどんな理由があってもいけない」「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」「将来の夢や目標を持っている」という子の割合もかなり高いことがわかりました。

学習では「家で自分で計画を立てて勉強している」が高いです。また「話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動ができている」と感じている子が多いです。「国語と算数の授業は好きで、よくわかり大切であり、将来役立つと思っている」ことも、全国や三重県よりも割合が高かったです。

一方、「学校以外での1日当たりの学習時間」は平日、休日ともに全国平均に比べ少ないということや「授業以外での1日当たりの読書時間」も全国平均に比べ少ないという実態がみられました。

3 学校質問紙からみた学校の特徴(県や全国との比較)

本校では、「一人一人のよい点や可能性を見つけて評価している」「言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて学校全体で取り組んでいる」ことが三重県や全国に比べよく行われていることがわかりました。一方で、一人一人に配備されたタブレットで「学校外の施設にいる人々とやり取りする」に活用する頻度が全国に比べ低いことがわかりました。

また、「コミュニティ・スクールの仕組みを生かして保護者や地域の人との協働による活動を行っていること」が三重県や全国に比べ、よく行われていることがわかりました。

調査結果をふまえた今後の取組について

1 指導の工夫・改善について

学校では全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえて、全学年で学力向上のための授業改善に取り組んでいきます。特に、正答率が低く課題のある学習内容については、つまづきを克服するために、授業や朝の学習等で系統的・継続的な指導を行います。「長文を読み取る」「論理的に書く」といった力を子どもが身につけ伸ばしていくためには、普段から「読む」「書く」の学習を積み重ねていく必要があります。単に「読む」「書く」の練習をするのではなく、例えば、子どもが教科書の文章中にある文や言葉を根拠にして論理的に自分の考えを書いたり述べたりする授業が必要です。授業の中で、自分の考えや方法・筋道などについて、文章で表現する機会を多くとり、目的や意図に応じて適切に書く指導を充実させます。算数で公式やきまり、計算の仕方を学習するとき、そのわけや意味まで理解できるように指導を工夫します。再度、教職員の研修を深め、子どもたちに力がつくよう取り組めます。

またタブレット等ICTの活用も進めます。「子どもが自ら学習を調整する力」を育てることも大事だと言われています。例えば、疑問に思ったら自分ですぐに調べる(インターネット)、自分で伝えたい方法で発表原稿の準備をする(写真、イラスト)、自分で決めた課題に取り組む(苦手を克服、発展問題に挑戦する)などです。家庭学習でも活かしてほしいと思います。

2 生活習慣・家庭学習について

ご家庭での家庭学習等のご支援ありがとうございます。全校で家庭学習について統一した取り組みを続けていることもあり、漢字や計算などの基礎的な学力は定着しつつあります。学習の定着のために、家庭学習の習慣化はととても大切です。宿題の内容や質、評価について定期的に検証していきます。家庭学習は、家庭との連携も必要になります。家庭学習をする時間や場所などを決めて取り組むことや注意喚起につながるような声かけなど、ご支援ご協力をお願いします。